

デーヴォ ガイド



2024.2.12-18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

➤ 12日 月曜

マルコ

14:12 種なしパンの祭りの最初の日、すなわち、過越の子羊を屠る日、弟子たちはイエスに言った。「過越の食事ができるように、私たちは、どこへ行って用意をしましょうか。」

14:13 イエスは、こう言って弟子のうち二人を遣わされた。「都に入りなさい。すると、水がめを運んでいる人に出会います。その人について行きなさい。」

14:14 そして、彼が入って行く家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする、わたしの客間はどこかと先生が言っております』と言いなさい。

14:15 すると、その主人自ら、席が整えられて用意のできた二階の大広間を見せてくれます。そこでわたしたちのために用意をきなさい。」

14:16 弟子たちが出かけ行って都に入ると、イエスが彼らに言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用意をした。

14:17 夕方になって、イエスは十二人と一緒にそこに来られた。

14:18 そして、彼らが席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ります。」

14:19 弟子たちは悲しくなり、次々にイエスに言い始めた。「まさか私ではないでしょう。」

14:20 イエスは言われた。「十二人の一人で、わたしと一緒に手を鉢に浸している者です。」

14:21 人の子は、自分について書かれている



とおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわい입니다。そういう人は、生まれて来なければよかったです。」

「過越の小羊」とは、イエス様のひな型です。かつてエジプトでイスラエルが奴隷として苦しんでいたときに、そこから神様が解放してくださったことを記念する祭りです。そのとき神様のさばきの手がエジプトに下ったのですが、小羊の血を塗った家はさばきを免れました。それはまさにイエス様の十字架の血によってさばきを免れるという救いを表しているわけです。

ですからイエス様はこの祭りにおいて十字架にかけられる必要がありました。イエス様はそれをご存知で、強い決心をもってこの日に臨まれたことがわかります。

そこでイエス様は「一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ります。」と予告なさいました。ユダに悔い改めるチャンスを与えたのです。もしも悔い改めるなら彼はただ神様との関係の中で、誰にも知られずにその問題を解決することができたはずでした。それは主の愛の促しです。しかし彼は、「わざわい입니다。」とまで警告されても変わりませんでした。

私たちは、主の愛の促しがあるうちに悔い改めましょう。主イエスの十字架への決心は、罪を赦し救うためなのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 火曜

マルコ



14:22 さて、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」

14:23 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、彼らにお与えになった。彼らはみなその杯から飲んだ。

14:24 イエスは彼らに言われた。「これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。」

14:25 まことに、あなたがたに言います。神の国で新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、もはや決してありません。」

14:26 そして、賛美の歌を歌ってから、皆でオリブ山へ出かけた。

14:27 イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、つまずきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散らされる』と書いてあるからです。」

14:28 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

14:29 すると、ペテロがイエスに言った。「たとえ皆がつまずいても、私はつまずきません。」

14:30 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。まさに今夜、鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

14:31 ペテロは力を込めて言い張った。「たとえ、ご一緒に死ななければならぬとしても、あなたを知らないなどは決して申しません。」皆も同じように言った。

聖餐式の原型がここにあります。それは単なる儀式ではなく、イエス様の十字架を覚えることであり、またこのように十字架前夜にイエス様の弟子たちの一人として、その食事にあずかることでもあります。教会の礼拝で聖餐のときは、その意味と心を大切にしましょう。また十字架に至るイエス様の思いを深く感じながら、これにあずかりましょう。

イエス様とペテロとの会話は、マルコでは「オリブ山に出かけてからであり、ルカではその前になっています。その話題が続いていたのかも知れません。それほどペテロには警告が与えられていたのに、彼は「私はつまずきません。」と、あくまでも自分の意思の強さを過信していました。しかも「たとえ皆がつまずいても」と、他の者の信仰を見下している様子も感じられます。

そこには彼の熱心さや主への情熱もあり、それゆえ彼は自分の思いは純粋だと感じていたでしょう。しかし誰の信仰であっても、人間の意志は弱いので聖霊によらなければ、それを全うすることはできないのです。

主への情熱を持ち、聖霊に頼りつつ、弱さを読み認めて謙遜になりましょう。何に関することでも、自分の弱さゆえの警戒が与えられたら、それを受け入れて、主によって強められましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 14日 水曜

マルコ

14:32 さて、彼らはゲツセマネという場所に来た。イエスは弟子たちに言われた。「わたしが祈っている間、ここに座っていない。」

14:33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを一緒に連れて行かれた。イエスは深く悩み、もたえ始め、

14:34 彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここにいて、目を覚ましていなさい。」

14:35 それからイエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、できることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈られた。

14:36 そしてこう言われた。「アバ、父よ、あなたは何でもおできになります。どうか、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行われますように。」

14:37 イエスは戻り、彼らが眠っているのを見て、ペテロに言われた。「シモン、眠っているのですか。一時間でも、目を覚ましていられなかったのですか。」

14:38 誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」

14:39 イエスは再び離れて行き、前と同じことばで祈られた。

14:40 そして再び戻って来てご覧になると、弟子たちは眠っていた。まぶたがとても重くなっていたのである。彼らは、イエスに何と言ったよいか、分からなかった。

14:41 イエスは三度目に戻って来ると、彼らに言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。もう十分です。時が来ました。見なさい。人の子は罪人たちの手に渡されます。」

14:42 立ちなさい。さあ、行こう。見なさい。わたしを裏切る者が近くに来ています。」

イエス様の十字架の苦しみはここゲツセマネから始まりました。三位にして一体である父なる神から捨てられることは、「悲しみのあまり死ぬほど」の苦痛なのです。しかも3年間ともに歩んできた弟子たちは、イエス様への思いよりも眠気の方が優先で、その後の裏切りと逃げ去りを思わせるような悲しい態度でした。

その中で主イエスは、人間となられたゆえの弱さを抱えながら、すなわち肉体の苦しみと恐怖心と戦いながら、十字架へ向かう祈りをささげたのです。「この杯をわたしから取りのけてください。」と祈ったのは、自分の願いを押し通そうとするものではなく、「みこころのままを、なさってください。」というように、主のみこころへと進む決心を固めるためのものです。

祈りはこのように、主のみこころを知って従う決心を与えられるためでもあります。十字架の愛を受け継ぐ私たちも、それぞれの十字架を負うために、そしてその後の勝利と賞賛をいただくためにも、主イエスの祈りを模範としましょう。主は「耐えられぬ試練にあわせることは(1コリント 10:13)」されないからです。



①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 15日 木曜

マルコ



14:43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二人の一人のユダが現れた。祭司長たち、律法学者たち、長老たちから差し向けられ、剣や棒を手にした群衆も一緒であった。

14:44 イエスを裏切ろうとしていた者は、彼らと合図を決め、「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえて、しっかりと引いて行くのだ」と言っておいた。

14:45 ユダはやって来るとすぐ、イエスに近づき、「先生」と言って口づけした。

14:46 人々は、イエスに手をかけて捕らえた。

14:47 そのとき、そばに立っていた一人が、剣を抜いて大祭司のしもべに切りかかり、その耳を切り落とした。

14:48 イエスは彼らに向かって言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。

14:49 わたしは毎日、宮であなたがたと一緒にいて教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕らえませんでした。しかし、こうなったのは聖書が成就するためです。」

14:50 皆は、イエスを見捨てて逃げてしまった。

14:51 ある青年が、からだに亜麻布を一枚まとっただけでイエスについて行ったところ、人々が彼を捕らえようとした。

14:52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、裸で逃げた。

ユダは親愛のしるしである口づけをもって、イエス様を裏切りました。神様に逆らい裏切っても、表面は信仰的に見せかけることもできるのです。ユダの行為がその親愛の行動によってなおさらイエス様

を悲しませるものとなったように、もしも親愛の行動で取り繕って裏切るなら、それはもっと悪いこととなります。常に真心で主に従いましょう。

はだかで逃げた青年のことを思っても、弟子たちの恐怖が大きかったとわかります。私たちは逃げ去った弟子たちを、信仰がないと言って片付けてしまうのではなく、自分に置き換えてみて、自分自身の信仰を吟味してみる必要があります。

おそらく誰もペテロのように「わたしはつまずきません。」と言える人はいないでしょう。主の愛をいただきながら、弱さを認めつつ、聖霊によって強められる必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 16日 金曜

マルコ

14:53 人々がイエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長たち、長老たち、律法学者たちがみな集まって来た。

14:54 ペテロは、遠くからイエスの後について、大祭司の家の庭の中にまで入って行った。そして、下役たちと一緒に座って、火に当たっていた。

14:55 さて、祭司長たちと最高法院全体は、イエスを死刑にするため、彼に不利な証言を得ようとしたが、何も見つからなかった。

14:56 多くの者たちがイエスに不利な偽証をしたが、それらの証言が一致しなかったのである。

14:57 すると、何人かが立ち上がり、こう言って、イエスに不利な偽証をした。

14:58 「『わたしは人の手で造られたこの神殿を壊し、人の手で造られたのではない別の神殿を三日で建てる』とこの人が言うのを、私たちは聞きました。」

14:59 しかし、この点でも、証言は一致しなかった。

14:60 そこで、大祭司が立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えはないのか。この人たちがおまえに不利な証言をしているが、どういうことか。」

14:61 しかし、イエスは黙ったまま、何もお答えにならなかった。大祭司は再びイエスに尋ねた。「おまえは、ほむべき方の子キリストなのか。」

14:62 そこでイエスは言われた。「わたしが、それです。あなたがたは、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることになります。」



14:63 すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「なぜこれ以上、証人が必要か。」

14:64 あなたがたは、神を冒[?]することはを聞いたのだ。どう考えるか。」すると彼らは全員で、イエスは死に値すると決めた。

14:65 そして、ある者たちはイエスに唾をかけ、顔に目隠しをして拳で殴り、「当ててみる」と言い始めた。また、下役たちはイエスを平手で打った。

多くが逃げ去った後も、ペテロは「イエスのあとをつけながら、大祭司の庭の中まで」入って行きました。イエス様への思いがあり、心配だったので。この後彼はイエス様のことを「知らない」と見捨てたのですが、しかし彼が「大祭司の庭の中」という危険なところまでついて行ったということは、神様に知られていたはずです。

イエス様はその思いをも知って、彼に「立ち直ったら…」と、希望と励ましをくださったのでしょう。私たちは弱いものですが、それで開き直ったり諦めたりしないで、中途半端と見られたとしても、自分にできる最善をつくしましょう。主は必ず見ておられます。

イエス様は罪のないお方ですから、誰も裁くことなどできません。その罪状が「ほむべき方の子、キリスト」であるとの証言であるというのは、示唆を与えます。人間は神を裁くことも評価することもできないのですが、そのような傲慢なことをする場合は必ず、神の神聖を否定するのです。すなわち、創造や主権、救いやさばきについて、それを否定して、自分が非難されないようにするのです。神を認めないことによって自分の安泰を保とうとするのです、しかしそれは逆に自分を窮地に追いやることとなります。

神の主権を信じて、その十字架で救われた私たちですから、今もまた主の主権の前にひれ伏しつつ、自分の存在を安心なものとしてゆきましょう。イエス様は「ほむべき方の子」であられます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 土曜

マルコ



14:66 ペテロが下の中庭にいますと、大祭司の召使いの女の一人がやって来た。

14:67 ペテロが火に当たっているのを見かけると、彼をじっと見つめて言った。「あなたも、ナザレ人イエスと一緒にいましたね。」

14:68 ペテロはそれを否定して、「何を言っているのか分からない。理解できない」と言って、前庭の方に出て行った。すると鶏が鳴いた。

14:69 召使いの女はペテロを見て、そばに立っていた人たちに再び言い始めた。「この人はあの人たちの仲間です。」

14:70 すると、ペテロは再び否定した。しばらくすると、そばに立っていた人たちが、またペテロに言った。「確かに、あなたはあの人たちの仲間だ。ガリラヤ人だから。」

14:71 するとペテロは、「?ならのろわれてもよいと誓い始め、「私は、あなたがたが話しているその人を知らない」と言った。

14:72 するとすぐに、鶏がもう一度鳴いた。ペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と、イエスが自分に話されたことを思い出した。そして彼は泣き崩れた。

ペテロはイエス様を裏切りました。特に少し前に、自分は絶対に裏切るようなことはないと言明していただけに、その行為が目立つことになりました。彼は自分の信仰を過信していたのです。誰もが自分は信仰を持ち続ける、あの人のような罪を犯すことはない、あれくらいの奉仕なら自分ならやり遂げられるなどと思ってしまうものですが、状況というものは変わるものです。

誰もが自分は弱い存在であること、今の状態は続かないかもしれないということを知り、謙遜であり

ましよう。そして謙遜ゆえに主の力に依り頼んで行きましょう。

イエス様は彼の裏切りをあらかじめ知っておられ、それを彼に伝え、彼が「イエスが自分に話されたことを思い出」すようにされましたが、それは彼をとがめるためではありませんでした。「立ち直ったら」と彼のその後希望と期待を与えたのです。

私たちは誰もが失敗するのです。それをなかつたかのように振舞うのではなく、またどうしようもなかつたのだと聞き直るのでもなく、さらには他の人も同じだと弁解するのでもなく、ただ主の赦しと回復をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18日 日曜

マルコ

15:1 夜が明けるとすぐに、祭司長たちは、長老たちや律法学者たちと最高法院全体で協議を行ってから、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。

15:2 ピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは答えられた。「あなたがそう言っています。」

15:3 そこで祭司長たちは、多くのことでイエスを訴えた。

15:4 ピラトは再びイエスに尋ねた。「何も答えないのか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているが。」

15:5 しかし、イエスはもはや何も答えようとされなかった。それにはピラトも驚いた。

15:6 ところで、ピラトは祭りのたびに、人々の願う囚人一人を釈放していた。

15:7 そこに、バラバという者がいて、暴動で人殺しをした暴徒たちとともに牢につながれていた。

15:8 群衆が上って来て、いつものようにしてもらうことを、ピラトに要求し始めた。

15:9 そこでピラトは彼らに答えた。「おまえたちはユダヤ人の王を釈放してほしいのか。」

15:10 ピラトは、祭司長たちがねたみからイエスを引き渡したことを、知っていたのである。

15:11 しかし、祭司長たちは、むしろ、バラバを釈放してもらうように群衆を扇動した。

15:12 そこで、ピラトは再び答えた。「では、おまえたちがユダヤ人の王と呼ぶあの人を、私にどうしてほしいのか。」

15:13 すると彼らはまたも叫んだ。「十字架

につけろ。」

15:14 ピラトは彼らに言った。「あの人がかような悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につけろ。」

15:15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思い、バラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。

マルコ福音書のテーマはいかなれば、”イエスがいかに力ある御父の働き手であるか”というものです。(その最たるものは十字架によるあがないです。)人間的に見れば、一般的に力ある者は雄弁で、自分の正しさを効果的に主張し、相手の心を動かして、自分の目的を成し遂げるといふものでしょう。しかしイエス様は違いました。「それでも、イエスは何もお答えにならなかった」のです。

イエス様は全てを父なる神にお任せするという、最も効果的で力ある道を知っておられたからです。そして御自分の主張は控えて、父なる神のみこころのみを求めるといふ、最も雄弁な道を知っておられたのです。

私たちは自分の不利に際して、あせってあれやこれやと言いたくなるものです。または立場が悪くならないようにと、時には相手をやり込めたくなるものです。しかしそれは全く効果的ではなく、雄弁でもなく、非効率的であることを知りましょう。

全能の神のみこころに委ねること、これが本当に力ある者なのです。また、時には何も申し開きの機会が与えられないまま、悔しい思いをすることがあるかも知れませんが、そのときも御父に委ねることのすばらしさを感じましょう。イエス様と同じ道を歩み、栄光を見ることができるようです。



①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

